



令和5年度 令和のとやま型教育推進事業を終えて

今年度も、各市町村教育委員会や推進校には、それぞれのテーマに沿った実践研究に取り組んでいただきました。「令和の時代に求められる教育理念の具現化と学習指導要領の確実な実施に資する」「問題発見・解決能力等、変化の激しい予測困難な時代に生きるために必要な児童生徒の資質・能力の育成を図る」というねらいに向けて、多くの成果がありました。情報交換を通して、取組の成果や課題を今後の実践の充実につなげたり、各講演から授業改善に向けて大切なポイントを再確認したりすることもできました。本号では、第3回研修会(報告会)の様子と第4回研修会(講演)の概要をお伝えします。

第4回 令和のとやま型教育推進研修会

【演題】

対話をベースにして主体的・探究的な学びを徹底する
一次期指導要領とウェルビーイングを見据えてー

【講師】

学校法人桐蔭学園理事長
桐蔭横浜大学 教授 溝上 慎一 先生



2月20日(火)に170名を超える先生方の参加のもと、オンラインで溝上先生のお話を聞きました。講演内容の一部を紹介します。

現行の学習指導要領の徹底

予測困難な変化の激しい社会において、様々な問題を解決し、持続可能な社会をつかっていく人材を育成するためには、学びの連続性を意識し、資質・能力を育成していくことが重要です。

ポイントは、「**社会に開かれた教育課程**」と「**資質・能力の育成**」です。この2つを本当に理解して、本気で実践することが大切です。

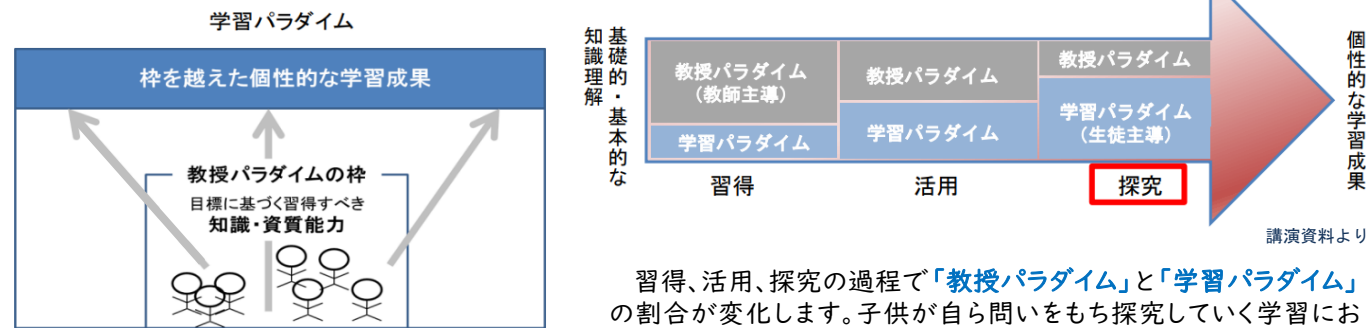


溝上先生



社会に開かれた教育課程による資質・能力の育成
教師が何を教えたか→子供が何をどう学んだか

「教授パラダイム」から「学習パラダイム」へ



「教授パラダイム」の枠を踏まえて、その枠を越えた個人的な学習成果を目指していくのが、「学習パラダイム」です。

習得、活用、探究の過程で「教授パラダイム」と「学習パラダイム」の割合が変化します。子供が自ら問いをもち探究していく学習においても、問いの立て方や情報収集の仕方、発表の仕方等、教えることがあります。

「教えること」と「学ぶこと」をバランスよく

第3回 令和のとやま型教育推進研修会「報告会」

1月24日(水)に事業報告会をオンラインで開催しました。Zoomのブレイクアウトルームを利用して、市町村や推進校の発表者が、9つのグループに分かれ取組を紹介し、参加者は、聞きたい発表を選んで協議に参加しました。

取り組んだ実践研究の成果や課題について情報交換を行ったり、改善策について協議したりしました。

R5 報告会資料「成果と課題」を「富山県教員応援サイト」に掲載中

<http://www.kyoinouen.tym.ed.jp/reiwatoyama>

パスワードは「reiwa」です。(パスワードの取り扱いにご注意ください。)

取組紹介の例



幼・小・中が連携し、ふるさとの川でつながる環境教育を通して、課題解決能力を育成しています。活動が条例の制定につながりました。

学習者用デジタル教科書を活用して思考を整理し、自分のペースで自己調整しながら学習を進めました。



参加者の声



同じ「問題発見・解決型学習」をテーマにしても様々なアプローチの仕方があることが分かりました。個の学びを充実させる具体的な手立てがとても参考になりました。

各市町村や学校がそれぞれの特徴を生かし、思いや願いをもって取り組んでおられる様子が伝わってきました。意見交換を通して、ヒントを得るとともに、自校の課題に気付くことができました。



主体的な学びとは

「主体的な学び」とは、子供(主体)が、課題(客体)に対して進んで働きかけている状態です。それを3層で捉えてみましょう。

(I) 課題依存型の主体的学習

興味・関心をもって課題に取り組む
書く・話す・発表するなどの**外化の活動**を通して課題に積極的に取り組む

与えられた課題に対して、前のめりに取り組む。
見たり聞いたりして理解したことを**自分の言葉で「外化」する過程で、単独の知識や事象がつながり、「深い学び」になる。**

(II) 自己調整型の主体的学習

学習目標や学習方略、メタ認知を用いるなどして、**自身を方向付けたり調整したり**して課題に取り組む

自分で目標を立てて取り組んだり、自分に合った方法を見付けたりしながら、課題に対して**自ら働きかけ**をつくらせて学ぶ。

(III) 人生型の主体的学習

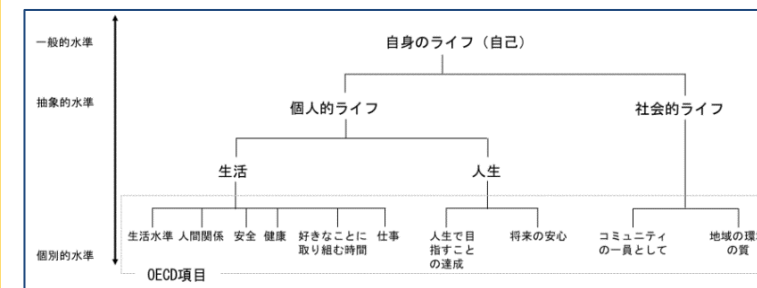
中長期的な人生の目標達成、アイデンティティ形成、**ウェルビーイング**を目指して課題に取り組む

主体的な学びは、時に教科の学習活動を超越して**自身のライフ(生活・人生)を構築**する。=キャリア形成
学習活動から未来が立ち上がる。

主体的な学びの深まり

ウェルビーイングは「主体的な学び」に通じる

物質的・経済的な豊かさだけで幸せになれる時代ではなく、個性化が進んでいる現代において、**日々の生活から人生までを含めた「自身のライフの構築」**が重要です。



ウェルビーイングとは、主観的に良しと評価する「自身のライフ」を過ごしている状態である。(溝上先生の定義)

日々の学習活動を「やらされてやる」のではなく、子供自身が意義を考えて取り組み、生活や人生につなげていくことで、未来が立ち上がっていきます。
自分にとって大事なことを見極めて努力し、「自身のライフ」を満足・幸せな状態にしていって子供を育てましょう。

リフレクションの充実を!

- ① **モニタリング**: 何を学んだか
 - ② **コントロール**: どんなことをもっと学びたいのか
- ※次にどこに向かっていくのか、この先の自分を方向付ける振り返りが大切です。

こちらも参考に!

- 文部科学省「第4期教育振興基本計画」
- ◆持続可能な社会の創り手の育成
- ◆日本社会に根差したウェルビーイングの向上

